

## ☆ AWC事務局便り 8月号 ☆

## 獅子舞 in タイ

7月25日～8月1日まで、宮城県女川町の熊野神社氏子の方々の獅子舞グループと一緒にタイに行きました。日本の伝統文化を多くの方々に見ていただくと主に、伝統文化の継承の重要性を伝えるのが目的です。訪問先は山の村や、学校、AIDS孤児施設などです。

獅子舞メンバーの中心は、中学生と高校生。力強い太鼓と笛の音に合わせた獅子舞の演舞はエネルギーにあふれ、見ている人々を巻き込み、人々を元気にしていくようで、どの訪問先でも大歓迎でした。

お獅子が踊りながら観客の中に入り、一人一人の厄を祓う場面では、泣き出す子ども、逃げ出す子どももいる反面、村の高齢者は手を合わせて獅子を拝んでいました。文化や宗教は違っても、豊作や幸せを願う気持ちは人々の心に直接響き、伝わったのだと思います。それぞれの訪問先で、伝統的な村の踊りなども披露して下さい、獅子舞の方々をはじめとする私たちも一緒にその踊りに加わり、とても良い文化交流になりました。

チェンマイ在住の日本人の方々にも、地域に根差した日本の文化と直に触れることができたと大好評でした。



子どもたちの厄を祓うお獅子



夢中で獅子舞を見る子どもたち



村の人たちと一緒に踊るメンバー

## AIDS文化フォーラムでのシンポジウム開催

8月4日（土）13:00～15:00、AIDS文化フォーラムの分科会としてシンポジウム「性暴力とSNS-ネット社会を生きる子どもを守る-」を開催しました。

講師に一般社団法人Colaboの仁藤夢乃さん、インターネットポリシースペシャリストの宮崎豊久さんを迎え、コーディネーターはマリクリスティエ又代表が務めました。

居場所のない寂しさ、辛さからSNSに依存してしまう子どもを搾取するおとながいるという事実を知り、それを子どもたちの自己責任と責めるのではなく、私たちに何ができるのか考える機会となりました。家庭環境が悪く自己肯定感が持てないままだったり、人に相談をした経験がないから気持ちをうまく表現できなったり、助けを求めることができないでいる子どもの存在を改めて認識するとともに、子どもを商品として扱うおとなや社会に対してもっと敏感になり、反対する意識を持つことの大切さを学びました。同時に人と関係を築くこと、コミュニケーションをとることの重要性も再認識する機会となりました。

